



あおぞら保育園・新園舎へのサーバ・ネットワーク環境移行作業が大幅に遅れたため、PC環境が整わず、「園だより1月号」の発刊が遅くなってしまったことをお詫び申し上げます。

今年もよろしくお祈りします

年末年始何かと忙しい中、ご家族の皆様はお元気に過ごされましたでしょうか。子どもたちにとっては、さまざまな体験ができ、楽しいお正月休みだったのではないのでしょうか。

さて、いよいよ今年度もあと3ヵ月となりました。この時期は各クラスとも総まとめの大切な時期です。子どもたちが経験したことを生かし、主体性や社会性を身につけていけるよう保育を行っていきます。また、子どもたちの思いをしっかり受け止め、充実した時間を過ごしていければと考えています。

新しい年を、子どもたちに負けずに成長していけるよう、私たち職員も力いっぱいがんばりたいと思います。

2014/12/27 SUN太お楽しみ会

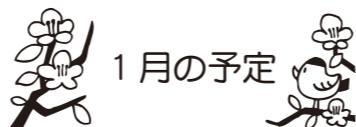
年末のお忙しい中、多数の方がご来場頂き本当にありがとうございました。おかげさまで大勢の方に見守られながら、無事に楽しく終了することが出来ました。先にお配りさせていただきましたアンケートにつきましては、結果がまとまり次第ご報告させていただきます。



SUN太お楽しみ会の写真(カメラマン撮影)は、1月下旬頃より掲示する予定です。お楽しみに!!

子どもはどうして鏡文字を書くの? ちゅあ

文字を覚え始めた子どもは、時に鏡文字や、一部が左右反転した文字を書きます。これは、私たちの目の目のしみに原因があります。水晶体というレンズに当たる部分は、外の世界を屈折して網膜に映し出すため、網膜には反転した世界が映ります。そこで、脳ではこの映像をもう一度反転して認識しています。文字を学び始めた子どもは、まだ文字を見慣れていないために、この脳の処理に失敗することがあるのです。小学校に入学して学習が進むうちに鏡文字を書かなくなっていく場合がほとんどです。あまり気にしないほうがよく、間違いを指摘するあまり厳しく何度も書き直させたりすると、文字に対する興味自体が薄れてしまい逆効果になってしまいます。



- 7日(水) 体育指導(職員)
- 13~16日 身体測定
- 14日(水) 避難訓練
- 15日(木) 調理保育(3歳児)
- 16日(金) 調理保育(4歳児)
- 21日(水) 音楽指導(幼児)
- 23日(金) お誕生会
- 28日(水) 発達・心理相談
- 28日(水) 園内職員研修
- 29日(木) 体育指導(幼児)



- 3(火) 節分の日会
- 5(木) お店屋さんごっこ
- 6(金) 職員会議
- 9・12・13 手洗い指導
- 10(火) パーカッション演奏会
- 12(木) 調理保育(らいおん)
- 16(月) 身体測定
- 18(水) 音楽指導
- 20(金) お誕生日会
- 24(火) ひな人形飾り
- 21・28 新入園児個別面談
- 25(水) 富士見小児学(らいおん)
- 25(水) 年長児交流会(らいおん)
- 25(水) 体育指導(幼児)
- 25(水) 職員園内研修
- 27(金) お別れ遠足(らいおん)

利用者調査への協力をお願いします

実施期間：平成27年2月実施予定

第三者評価とは?

保育所など社会福祉事業の事業者が提供するサービスの質を公正・中立な第三者の視点で、専門的かつ客観的な立場において評価を行うのが第三者評価です。

評価は都道府県ごとに認証された評価機関が行います。また、実際に行う評価調査者は評価機関に属しており、様々な資格をもち、社会福祉や経営の仕事に深く関わってきたものが、複数のチームを組んで評価調査にあたります。

※詳細につきましては評価機関である「株式会社ぎょうせい総合研究所」より、後日詳しいご案内が配布されます。



「わがままと自己主張」について

汐見稔幸著「元気が出る子育ての本① 0~3歳 能力を育てる 好奇心を引き出す」(主婦の友社)より抜粋

●わがままたち赤ちゃんなんていない

ほんとうのわがままとは、「こういうことを言うのはお母さんだ」「お母さんも周りの人も迷惑するんだ」とわかっていて、「したい」と主張することですから、0~2歳のころにはわがままたちではありません。3~4歳になって、自我ができてから出てくるものです。0~2歳期で「わがまま」「わがままでない」というのは、「甘えがひどい赤ちゃん」「淡泊な赤ちゃん」といいたほうがいいと思います。甘えるというのは、発達上欠くことのできない大事な行為ですから、十分に甘えさせてあげてください。

「甘え」と「甘やかし」と混同して使われていますが、「甘やかし」は、本来自分でできることをさせないで大人がやってしまうとか、人に迷惑がかかるかわかっていて、かってをさせることですから、こちらはいわゆる「わがまま」です。

一方、「甘え」は心の安定を求めて信頼できる相手に受容を求めることです。そして十分に満足いくまで甘えることができると、心が満たされて、再び自分をとり戻すことができます。お母さんやお父さんに甘えてくるときは、何か心の動揺があったときですから、しっかりそれにこたえてあげることがとてもたいせつなことです。それをわがままと勘違いして、親が厳しい態度をとると、子どもは心のエネルギーを補充することができなくて、精神的に不安定なままになってしまいます。



●自己主張は大事なこと

一方、自己主張というのは自分の感情や欲求に対して徹底的にこだわることです。たとえばコップで飲むのがまだへたな赤ちゃんに手を添えて飲ませてあげようとする、怒ってコップごとひっくり返したり、お母さんが用意した服が気に入らなくて、無理に着せようとする、泣きわめいたり。

自分の感情や欲求を出せない子より、いずれどこかで折り合いをつけるにしても、自分を主張できる子のほうが、よほど将来が楽しみといえます。

3歳を過ぎると、いままではダダをこねるような自己主張だけだったのが、きちんと理由の言える自己主張をする子が出てきます。



●親子がぶつかったときは

「自己主張のすすめ」を述べているわけですが、実際に毎日の育児の場面では、自己主張を歓迎してばかりはいられないということもよくあります。パジャマから服に着がえさせようとしても、いやがって逃げ回ったり、出勤時間の迫ったお母さんといっしょに保育園へ行くのに、ボタンを自分ではめるといってうまくできず、かんしゃくを起こしてますます時間ばかり過ぎてしまったり。

親子のぶつかり合いの場合、どこかで妥協しなくてはならないのですが、実害がなければ、子どもの言い分を認めてあげて、親が譲ってもいいのではないのでしょうか(保育園に行くという場面は時間の余裕を持って対応すると、気分転換をはからせるとかなんらかの対策が必要でしょう)。

親が子どもに譲るといっても、他人に害を及ぼす場合にはきちんと「ダメ」と言ってけじめをつけます。これを許していると、ほんとうのわがままになってしまいますから。

わが家の息子も物心ついてからずっと黄色い服しか着なかったため、祖母がお土産に持ってきてくれたかわいい服でも絶対に着ることはなく、「かわくないね」と言われていました。この子はこだわりの子で、一事が万事この調子。それはそれは一生懸命自己主張します。確かに育てにくい子ではありましたが、私も妻も他人に迷惑をかけない限り認めてやることにしていました。自己主張する能力はあとからではつけることができないからです。このことを知っていれば、親の都合で子どもの自己主張を抑えつけなくてはならないときも、だいぶ対応が変わってくると思います。この子のこだわりは、小学校4年生になって料理になり、長じてはスノーボードに発展しています。



●甘えとわがままとを繰り返す子

両親の不和とか、事情があって一時よそに預けられていたなど、家庭内に問題があって、赤ちゃんから幼児期にかけて甘えの体験が足りないと、自我の満足感をとり戻したくて、甘えとわがままという大きな揺れになってあらわれることがあります。こうしたときはわがまも十分に受け入れてやらなければなりません。本人もお母ちゃんを言っているわがままを言っているのですから。発達というのは、一本のまっすぐな登り道ではなくて、ジグザグの道を進みます。幼い子どものわがまもは戻り道の現象なのだとして理解してください。